

# 線形代数 (第 20 回)

## 20 ベクトル空間の基底と次元

今回はベクトル空間の基底について説明します.

### 定義 20-1 (基底)

ベクトル空間  $V$  のベクトルの組  $\{\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n\}$  が  $V$  の基底であるとは, 次の 2 つの条件を満たすことである.

- (i)  $V$  の任意のベクトル  $\mathbf{v}$  は  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  の 1 次結合で書ける.
- (ii)  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  は 1 次独立である.

\* (i) の条件を満たすとき,  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  は  $V$  を生成するという.

基底はベクトル空間において, 「座標軸」に相当します. 条件 (i) は,  $V$  のすべての点が「座標軸」でカバーされていること, 条件 (ii) は「座標軸」に無駄が無いことを意味します.

### 例題 20-1

ベクトルの組

$$\mathbf{e}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{e}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad \dots \textcircled{1}$$

は,  $\mathbb{R}^2$  の基底になることを示せ.

### [証明]

$\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2$  が定義 20-1 の条件 (i), (ii) を満たすことを確認すればよい.

(i)  $\mathbb{R}^2$  の任意のベクトル  $\begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix}$  は

$$\begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix} = a \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} + b \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = a\mathbf{e}_1 + b\mathbf{e}_2$$

と  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2$  の 1 次結合で書ける.

(ii)  $c_1\mathbf{e}_1 + c_2\mathbf{e}_2 = \mathbf{0}$  ( $c_1, c_2 \in \mathbb{R}$ ) とすると,

$$\begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$

より  $c_1 = c_2 = 0$ . よって,  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2$  は 1 次独立である.

以上 (i), (ii) により  $\{\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2\}$  は  $\mathbb{R}^2$  の基底である.

□

[注意]  $\mathbb{R}^n$  のベクトル

$$\mathbf{e}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{e}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \dots, \quad \mathbf{e}_n = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

を  $\mathbb{R}^n$  の**基本ベクトル**と呼びます. 例題 20-1 と同様に  $\{\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \dots, \mathbf{e}_n\}$  は  $\mathbb{R}^n$  の基底であることが確かめられます. これを  $\mathbb{R}^n$  の**標準基底**と呼びます.

### 例題 20-2

次の  $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2\}$  は  $\mathbb{R}^3$  の基底か?

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$$

[解答]

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} = c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 \quad (c_1, c_2 \in \mathbb{R}) \cdots (*)$$

なら,

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \\ c_1 \end{bmatrix}$$

このとき,  $c_1 = 1$  と  $c_1 = 0$  となり矛盾. よって (\*) を満たす  $c_1, c_2$  は存在しない. よって  $\mathbf{a}_1$  と  $\mathbf{a}_2$  の 1 次結合で書けない  $\mathbb{R}^3$  のベクトルがある. 以上より,  $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2\}$  は  $\mathbb{R}^3$  の基底ではない. □

### 例題 20-3

次の  $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$  は  $\mathbb{R}^2$  の基底か?

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$$

[解答]

$c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + c_3\mathbf{a}_3 = \mathbf{0}$  ( $c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R}$ ) とすると,

$$\begin{cases} c_1 + 2c_2 + c_3 = 0 \\ c_1 + c_2 - c_3 = 0 \end{cases} \quad \dots (*)$$

係数行列を基本変形で簡約化すると

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \end{bmatrix} &\rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 2 & 1 \\ 0 & -1 & -2 \end{bmatrix} \\ &\rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 2 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \end{bmatrix} \\ &\rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -3 \\ 0 & 1 & 2 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

より, 行列の階数 (= 2) は変数の個数 (= 3) と異なるので, (\*) の解は  $c_1 = c_2 = c_3 = 0$  以外にも存在する (定理 7-2). よって  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  は 1 次従属より  $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$  は  $\mathbb{R}^2$  の基底でない. □

基底の取り方は 1 通りではありません. 例えば, 標準基底以外にも  $\mathbb{R}^2$  の基底として,

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad \dots \textcircled{2}$$

が取れます (問題 20-1). このように基底の取り方はいくらでもあります. しかし,

**基底に含まれるベクトルの個数は取り方に依らず一定である**

例えば, ①, ②のどちらの  $\mathbb{R}^2$  の基底も 2 個のベクトルからなっている.

**定理 20-1 (文献 [1] 定理 4.4.1)**

ベクトル空間  $V$  の基底に含まれるベクトルの個数は, 基底の取り方に依らずに一定である.

上の定理を踏まえて, ベクトル空間の次元を定義します.

**定義 20-2 (次元)**

ベクトル空間  $V$  の基底に含まれるベクトルの個数を  $V$  の**次元**といい, 記号で  $\dim(V)$  と表します. ただし,  $V = \{0\}$  のときは  $\dim(V) = 0$  と定める.

数ベクトル空間  $\mathbb{R}^n$  は基底として標準基底が取れるので次元は  $n$  となります. つまり,  $\dim(\mathbb{R}^n) = n$  が成り立ちます.

**問題 20-1** ② が  $\mathbb{R}^2$  の基底であることを示せ.

**問題 20-2** 次のベクトルの組が  $\mathbb{R}^3$  の基底であることを示せ.

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

ベクトル空間の次元が判明している場合, 次の定理が基底の判定において役に立ちます.

**定理 20-2**

$n$  次元のベクトル空間  $V$  において, 1 次独立な  $n$  個のベクトルの組は  $V$  の基底になる.

**[証明]**

文献 [1] の定理 4.4.2 とその証明から従う.

□

定理 20-2 の使い方を確認しておきます.

#### 例題 20-4

次のベクトルの組が  $\mathbb{R}^3$  の基底になることを示せ.

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ 1 \\ 5 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 5 \\ 3 \\ 2 \end{bmatrix},$$

#### [解答]

$\dim(\mathbb{R}^3) = 3$  に注意する. 定理 20-2 より,  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  が  $\mathbb{R}^3$  の基底であることを示すには, 1 次独立であることを示せばよい.  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  を並べた行列  $A$  の行列式を考える.

$$|A| = \begin{vmatrix} 1 & 3 & 5 \\ 2 & 1 & 3 \\ 2 & 5 & 2 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & 3 & 5 \\ 0 & -5 & -7 \\ 0 & -1 & -8 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} -5 & -7 \\ -1 & -8 \end{vmatrix} = 33 \neq 0$$

定理 19-3 より  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  は 1 次独立である.

□

**問題 20-3** 次のベクトルの組が  $\mathbb{R}^3$  の基底になる実数  $a, b$  の条件を求めよ.

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ a \\ a^2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ b \\ b^2 \end{bmatrix}$$

#### 定義 20-3

ベクトル空間  $V$  の要素  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_t$  の 1 次結合すべてのなす集合

$$W = \{c_1\mathbf{u}_1 + c_2\mathbf{u}_2 + \dots + c_t\mathbf{u}_t \mid c_1, c_2, \dots, c_t \in \mathbb{R}\}$$

は  $V$  の部分空間になる. このベクトル空間  $W$  を

$$\langle \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_t \rangle_{\mathbb{R}}$$

と表すこととし, これを  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_t$  で生成される  $V$  の部分空間と呼ぶ.

定義 20-3 の  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_t$  の 1 次独立な最大個数を  $r$  とします. 必要なら順番を取り替えて  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r$  ( $r \leq t$ ) が 1 次独立とします. このとき, それ以外の  $t - r$  個のベクトルは

$\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r$  の 1 次結合で書けるので

$$W = \langle \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r \rangle_{\mathbb{R}}.$$

よって,  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r$  は  $W$  の基底になります. 従って  $\dim(W) = r$  を得ます.

### 例題 20-5

数ベクトル空間  $\mathbb{R}^3$  のベクトル

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ -3 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 4 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

で生成される部分空間  $W = \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3 \rangle_{\mathbb{R}}$  の 1 組の基底を求め, 次元を求めよ.

[解答]

$$c_1 \mathbf{a}_1 + c_2 \mathbf{a}_2 + c_3 \mathbf{a}_3 = \mathbf{0} \quad (c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R}) \quad \dots \textcircled{3}$$

とすると

$$\begin{cases} c_1 + 2c_2 + 4c_3 = 0 \\ c_1 - 3c_2 - c_3 = 0 \\ c_2 + c_3 = 0 \end{cases}$$

係数行列を基本変形すると

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} 1 & 2 & 4 \\ 1 & -3 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 2 & 4 \\ 0 & -5 & -5 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 2 & 4 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

となるので

$$\begin{cases} c_1 + 2c_3 = 0 \\ c_2 + c_3 = 0 \end{cases}$$

つまり

$$c_1 \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} + c_2 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + c_3 \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad \dots \textcircled{4}$$

① と ② で  $c_1, c_2, c_3$  は共通なので,  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  の間の 1 次独立・1 次従属の関係は,

$$\mathbf{b}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{b}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{b}_3 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$$

の関係と同じになる.  $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2$  は 1 次独立で,  $\mathbf{b}_3 = 2\mathbf{b}_1 + \mathbf{b}_2$ . 従って,  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  も 1 次独立で,  $\mathbf{a}_3 = 2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2$ . よって  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  が  $W$  の基底であり,  $\dim(W) = 2$  となる.

□

**問題 20-4** 数ベクトル空間  $\mathbb{R}^3$  のベクトル

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 2 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_4 = \begin{bmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}$$

で生成される部分空間  $W = \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3, \mathbf{a}_4 \rangle_{\mathbb{R}}$  の 1 組の基底を求め, 次元を求めよ.